

## 東海・北陸ブロック

## 1.プログラム詳細

10月9日(木)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(福井県)
10:40～11:40	60	講演① 「交通ボランティアの育成と活性化」 宮田美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 「自転車の安全利用」 彦坂誠(一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部)
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評(コーディネーター) 宮田美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

## 2. 講義等の記録

### ■ 講演①

特定非営利活動法人日本こどもの安全教育総合研究所理事長

宮田 美恵子

### 「交通ボランティアの育成と活性化」

#### 1. ボランティア活動の本質

ボランティアとは、本来「自発性」や「自ら進んでやること」を意味する。日本では無償性が強調されがちだが、本質は形式ではなく、社会や誰かのために「進んで何かしたい」と願う活動そのものにある。

○ ボランティア活動の原則(文部科学省)

• 自主性・自発性:

個人の自発的な意思に基づいて主体的に行うもの。

• 社会性・連帯性:

活動に際し、社会の一員としての自覚、周囲を尊重して行動することが大事。

• 無償性・無給性:

活動の対価として見返りを求めない。

• 創造性・開拓性・先駆性:

行政よりも創造性をもって活動する。工夫や全く新しいものを作り出す先駆性が重要。

#### 2. 子どもたちの記憶に焼き付く「大人の姿」

子どもたちは、大人が想像する以上に「見守ってくれる存在」を鮮明に記憶している。その姿自体が、次世代への生きた安全教育となっている。

○ 活動が与える影響

継続する姿への驚き:

暑い日も寒い日も欠かさず立つ姿を通じ、他者のために尽くす尊さを子ども心に感じ取っている。

圧倒的な安心感:

「いつもあの人がいる」という安定した存在が、登下校時の大きな心の支えとなる。

大人になって知る意義:

成長後、教育現場などに立った元児童から「皆様のおかげで無事に大人になれた」という感謝が寄せられるケースも多い。

#### 3. 現場から苦労と喜びのエピソード

各地の活動には、個々の背景に基づいた強い信念と、地域特有の工夫が見られる。

○ ブロック別活動事例

東北ブロック「母の会」:

震災でがれきが残る中、交通整理に奔走。一軒ずつ訪問し、世間話をしながら反射材を付ける「ふれあい活動」を展開。その背中を見た高校生が自発的に指導に立つなど、精神の継承が起きている。

東海北陸ブロック「交通指導員」:

家族を交通事故で亡くした経験を原動力に活動。「強制がない自由」があるからこそ自らの意思で続けられる。若者との挨拶などの小さな触れ合いが「明日への活力」となっている。

#### 4. メンバー減少への具体的処方箋

メンバー減少に対し、活動を「スリム化」し「裾野を広げる」ことで持続可能な形へと転換する。

○「メイト(MATE)」の法則(無理なく楽しむキーワード)

- M(Man): できる人が
- A(Act): できることを
- T(Time): できる時に
- E(Enjoy): 楽しみながら

⇒「病院や私用を優先する」ことを許容し、足腰が弱くなれば「自宅での作業」に切り替えるなど、個人の事情に合わせた役割分担が重要。

#### 5. 「ながら見守り」と視覚的な仕掛け

防犯の知恵を交通安全にも取り入れ、周囲への啓発と死角の解消を図る。

○実践的な手法

視覚による抑止:

自転車にプレートを付ける、文字入りのバッグを持つ。

⇒ドライバーに「意識の高い地域」であることを知らせ、安全運転を促す。

「一人区間」を埋める:

子どもが孤立しやすい区間の住民や商店に、下校時の30分間だけ「見守りベンチ」として店先に座ってもらうなどの協力を依頼する。

#### 6. ボランティア自身が輝く活動へ

交通安全のための紙芝居など、個人の「特技」を入りに仲間を増やすことも有効である。一番大切なのは、活動するボランティア自身がやりがいを感じ、楽しみながら継続することである。皆様の日々の地道な一歩一歩が、確実に子どもたちの命を守り、未来の大人たちを育てている。無理をせず、健康に留意しながら、今後も温かい活動を続けていきたい。

■講演②

一般財団法人日本交通安全教育普及協会 普及事業部長

彦坂 誠

「自転車の安全利用について」

※12 ページの北海道ブロックでの講演録を参照

## ■活動事例発表

### 愛知県交通安全母の会 会計

#### 山田 好恵

愛知県交通安全母の会会計の山田好恵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、愛知県交通安全母の会における活動について紹介いたします。愛知県交通安全母の会は、幼児児童生徒ならびに高齢者を交通災害から守り、交通事故のない明るい家庭づくりに寄与することを目的とし、昭和 57 年に設立いたしました。市町村交通安全母の会、幼児交通安全クラブ、子どもを守る会、女性運転者友の会、交通婦人会などで構成されています。年々縮小されており、課題となっておりますが、県内 30 の町村の関係団体および個人会員が加入しており、総勢約 4 万 6000 名が活動しています。

事業につきましては、母親自らの交通安全の実践と家庭の交通安全を期すため、「交通安全は家庭から」の運動を推進しております。事業の内容は 1 から 6 のとおりでございます。本日は、愛知県交通安全母の会における主な活動についてご紹介いたします。

まず 1 つ目は、交通安全家族の集いについて説明いたします。家族の集いは、園児、保護者、高齢者が世代の垣根を越えて自ら参加し、考え、学ぶことを大きな特徴とする、地域に根ざした参加体験型の交通安全イベントです。三世代が一堂に会し、お互いを思いやる気持ちを高め、交通安全に対する意識や行動を高めていこうというきっかけをつくり、交通安全の輪を広げることを目的として実施しています。

昨年度は 10 月 30 日に愛西市の一重保育園で開催いたしました。園児から交通安全のメッセージが描かれたお手紙を保護者と祖父母に送り、保護者祖父母からは園児へ温かい言葉が贈られました。地元の警察官による交通安全講話、そして横断歩道の横断体験を行いました。子供たちは白い顔形の反射材に好きなパーツのシールを貼り、オリジナルのリフレクターを作りました。作ったリフレクターは家族へのプレゼントといたしました。交通安全の塗り絵セット、反射材付きレッスンバッグ、リフレクターなどを子供たちに渡しました。参加された保護者、祖父母の方からは改めて交通安全について考え、子供への指導や自分の行動を見つめ直すきっかけになったと感想がありました。

2 つ目は交通安全教室について説明いたします。家族のつどいは三世代に対したものでしたが、交通安全教室は園児に対してのみ参加、体験型の交通安全イベントを行うものです。交通安全について「自ら参加し、考え、学ぶ」力を養うことを目的として実施しています。各市町村に募集をかけ、依頼があった園に対して年に 1 から 3 年をめどに実施しています。内容については、地元警察署の交通安全講話、動物の反射材に反射シールを貼るオリジナル反射材づくり、反射スコープライトを覗いて反射効果を体験、横断歩道横断体験後、パトカーと写真撮影が主な内容になります。

3 つ目は、ハンド・アップ広報隊活動についてです。ハンド・アップ広報隊は、子供と高齢者の事故防止に効果的なハンド・アップ運動のさらなる浸透を図るため、会員の地元での啓発活動を展開しています。加入市町村に依頼をし、秋から冬にかけて大人も子供も手を上げて道路を渡る意識を伝えるハンド・アップ運動を周知する広報隊活動を行っていただいています。幼稚園や小学校において、警察官や交通指導員による交通安全教室、警察や地域の方々の協力のもと、地域の方と触れ合いながらハンド・アップで横断の体験、ショッピング施設に来場された方に対してや地域のイベントでの啓発活動など、各市町村の実情に合った取り組みがなされています。

愛知県名古屋市の中心部にある人が多く集まる場所においても、愛知県交通安全母の会の役員を中心に街頭啓発を行っています。のぼり旗を上げ、ハンド・アップと反射材の活動を呼びかけています。その時に

配布した啓発品は、ハンド・アップをアピールするウェットティッシュと猫が手を挙げている反射材キーホルダーです。ウェットティッシュについては、加盟市町村にも啓発活動していただけるように配布しております。

4 つ目は、交通安全街頭啓発キャンペーンについてです。年に 4 回実施される交通安全運動の初日に人の多く集まる地下街において行われています。秋については、先ほどのハンド・アップ広報隊活動として実施しています。交通安全運動のチラシとともに、早朝、夕暮れ時、夜間の事故防止のため反射材を身につけると効果があることを伝え、いろいろな世代の方々を対象に啓発品の反射材を配っています。

横断時には手を上げて渡る意識を伝えるハンド・アップ運動の実践を呼びかけ、交通安全に気をつけてもらうよう声をかけています。配布した主な啓発品はこちらです。啓発ティッシュ、反射材キーホルダー、LED スターキーホルダー、リストバンドなどです。季節ごとに配布するものを変えています。

5 つ目は研修会です。毎年加入市町村の母の会の会員様にも声をかけて研修を行っています。昨年度は愛知県交差点事故防止出張講座を実施しました。愛知県職員が出張し、愛知県内の交差点事故の特徴に関する簡単な講義のほか、歩行環境シミュレーターを使った交差点横断の疑似体験を通して、安全な道路の横断歩道について学びました。

最後にトラックフェスティバルです。交通関係団体が主催するトラックフェスティバルでブース出展を毎年行っております。本年度は 2 月 15 日日曜日に開催されます。手作り反射材を作ることのできるブースや、反射材の光り具合をライトで確認する体験をするブースを出展し、リフレクターの活用促進を啓発しています。以上が主な活動になります。現在、年々会員数や加入市町村数が減少していること、運営する役員の高齢化や後継者が少ないことが課題となっています。そのため活動の幅を広げたり、充実を図ったりしていこうと考えています。本日、皆様方から参考になる事例がございましたら、教えていただけたらと思っております。以上が愛知県交通安全母の会における活動についての紹介です。ご清聴ありがとうございました。

## 岐阜県交通安全女性協議会会長

### 古田 伸子

こんにちは。岐阜から参りました。古田伸子と言います。よろしく申し上げます。こういう場はあまり慣れておりませんので、舌を嚙んだりしますがどうぞよろしく願いいたします。では、岐阜県から県内の交通安全協議会会員を中心に参加させていただいておりますので、私から当協議会や県における交通安全の取り組みを中心に説明させていただきたいと思っております。

まず、岐阜県の交通事情について説明させていただきます。令和 6 年度中交通事故で亡くなった方は 70 名いました。その中で、65 歳以上の高齢者が 43 名で全体の 6 割を占め、5 年間の平均 63.5%と高い割合で推移しています。また、過去 5 年間の高齢者死者を見ても、歩行者が最も多く、続いて自転車、自動車となっております。もう少し細かく見ても、高齢歩行者の死者の 72.4%が道路横断中に被害に遭っており、高齢者以外の 27.8%と比べると高い割合を占めていることがわかります。さらに、高齢歩行者の死者の 7 割強が夜間に被害に遭っており、特に日没後 1 時間以内に多く発生しております。高齢者歩行者の死者を月別に見てみますと、10 月から 3 月の夜間に多く発生しているため、これらの時期に特に気をつけなければならないことがわかります。以上のことから、岐阜県では高齢者を中心に道路横断時の安全確認の徹底や反射材の着用等を呼びかけることで、交通事故を防止していく必要があると思っております。

これらの状況を踏まえ、県及び市町村の交通安全女性連絡協議会が日々行っている活動を紹介させていただきます。県として、高齢者に対する交通安全対策として、主に高齢者世帯訪問事業やサポートカー

試乗会を実施しています。高齢者世帯訪問事業とは、交通指導員や交通女性員が市内の高齢者世帯を訪問し、交通安全に関するガイドブックや反射材などの啓発物品、消費生活に関するカレンダーの配布を行い、被害防止を呼びかける事業です。今年度は、県内 17 市町村で約 2 万世帯を訪問する予定です。サポートカー試乗会では、関係市町村、警察、関係企業と連帯し、大型商業施設等において自動ブレーキを体験する安全運転サポート車の試乗会・展示会を開催することで、安全運転サポート車の普及に努めています。

次に、交通安全女性連絡協議会の活動を細かく紹介していきたいと思います。まず、協議会について説明しますと、この協議会は交通安全女性の自主的な活動を推進することを目的に昭和 55 年に発足しました。県内市町村の交通安全女性連絡協議会の会長、もしくはそれに相当する組織の代表者が構成員となっており、現在 13 の市町村の会員で構成しております。協議会の主な活動としましては、マスコットや缶バッジといった交通安全啓発物品の作成、講習会を開催し、市町村で行われる交通安全啓発イベント等で配布しています。交通安全についての学習会を開催したり、反射材などの啓発物品の購入配布をしたりしています。

次に、市町村の交通安全協議会での活動を紹介させていただきます。私が所属しております関市では、市の交通安全運動期間に合わせて、通学通勤時間に人波作戦、街頭啓発や重点街頭啓発を地域の自治会の交通部長さん、そして交通安全協会の皆さんと一緒にしています。その期間中に、市が開催している県道沿いを走る自動車のドライバーに対し交通安全を呼びかけています。また、市内小学校 5 年生を対象に交通安全イラストを募集し、最優秀作品を缶バッジキーホルダーにして次年度の新入児童に配布する活動を行っています。この活動は平成 29 年から 9 年続けており、毎年保護者からも好評で、学校だけでなく地域や家庭で交通安全の意識を醸成していくきっかけになっています。また、交通安全について学ぶ機会も設けており、県で行われているキッズ・スクールセーフティ事業に参加し、警察署等の交通安全に関わる施設の見学をしています。キッズ・スクールセーフティ事業とは、県と一般財団法人日本自動車連盟 JAF が行っている事業で、シートベルトコンビンサーというものを利用した参加体験実践型交通安全教室です。この体験を通じて、シートベルトやチャイルドシートのことを知って改めて学ぶことができました。私も乗りましたが、あまりの衝撃にちょっとびっくりしました。

視察研修では、交通安全に関わる施設の見学に行き、スズキ歴史館ではスズキ自動車の歴史や交通安全の取り組みといった話を聞き、交通の知識や見聞を広めることができました。加えて、普段会う機会の少ない会員との情報交換の場にもなりました。

最後に中津川の活動を少し紹介させていただきます。「横断歩道もつと止まつと(トマト)」っていうキャンペーンでは、「止まつと」と「トマト」をかけ、中津川市の特産品であるトマトやトマトケチャップを配りました。また、飲酒運転交通事故根絶作戦では、根絶の「根」からコーンのトウモロコシを配りながら、ドライバーに対して直接呼びかけを行っています。この活動は、中津川市の交通安全女性だけではなく、地元の保育園児、中津川警察署、中津川市地域交通安全協会、その他地域団体と合同で開催しております。

以上のように、岐阜県及び交通安全女性協議会では、交通安全の取り組みを日々行っています。こういった活動を続けることで、事故を少しでも減らしていきたいと思います。岐阜県の発表は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

## 静岡県くらし交通安全課交通安全班 主任

### 宮城島 遥

こんにちは。静岡県庁から来ましたくらし交通安全課の宮城島と申します。私の方からですね、本日県の交通指導員連合会の事務局として参加させていただいておまして、県の交通指導員連合会の取組についてご紹介させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

流れについて記載しましたが、まずどういう組織なのかっていうところの概要を説明させていただきましてその後、主な活動内容についてお伝えさせていただければと思います。今日の研修会にご参加いただいている皆様の中では、母の会などに所属されている方が多いと伺っております。そのため、あまり交通指導員会っていうところについてはなじみのない方も中にはいらっしゃるかもしれませんので、まずどういった組織なのかっていうところをご紹介させていただきます。

静岡県では昭和 30 年頃から子供の交通事故が増加したことを受けて、自発的に地域の有志らが街頭指導の方を始め、各市町村の交通指導員会が設立されました。そして、その資質向上と活動の内容の統一化を図るために、昭和 44 年 12 月 1 日に静岡県の交通指導員会連合会が設立され、県が交通指導員連合会の事務局を務めています。主な活動内容は、学童園児の通学通園指導員、小学校幼稚園での交通教室、各期交通安全運動への参加等です。現在、県内の 33 市町が加盟しており、4 月 1 日時点で 1207 名の交通指導員が活動しています。しかし、交通指導員も県内の高齢化や会員数の減少が課題にもなっています。ここから県の交通指導員連合会として実際に実施している取り組みについて御紹介をさせていただきます。

年に 2 回、7 月と 12 月に県内の交通指導員が登下校時に通学路などに立って一斉に街頭指導というものを行っています。具体的な活動としては、児童生徒に対する道路横断や歩道での歩き方の指導、自転車の通行ルールに関する指導、のぼり旗等を使用したドライバーへの注意喚起等を行っています。これらの活動を通じて、学童や幼児を保護するとともに、歩行者や運転者に安全な交通行動を呼びかけ、地域全体の交通安全意識を高めることを目的としています。ちなみに、今年の 7 月 1 日の一斉街頭指導には、1000 名を超える交通指導員が参加をしました。また、交通安全啓発品の製作購入をして各市町の交通指導員会に配布することで、交通指導員の活動の促進をしています。令和 5 年度はハンドプレート、令和 6 年度は横断旗を購入しました。今年度はハンドプレートの文言を変更したものを作成しております。

指導員はこれらを活用してより効果的に街頭啓発を行うことで、視覚的な情報を通じて地域住民に交通安全の重要性を伝えています。県の交通指導員連合会では登下校中の子どもたちを交通事故から守るため、交通指導員さんを対象とした実務者研修会というものや毎年開催しています。この研修会は、指導技術の向上を目的とした重要な取り組みになります。研修会では、交通安全協会ってものが静岡県にございまして、指導員を講師として招いて街頭指導方法に関する講義や実践的な指導を行っています。具体的には、交通誘導の心構えや手信号の基本動作、具体的な交通リスクを想定した指導方法など、実践的な技術を学ぶことができます。さらに、この研修会は指導員会の皆さんの情報共有の場としても機能しており、それぞれの地域での交通安全対策の質を高める一助にもなっています。

また、当連合会では交通指導員会の会長や役員等を対象とした交通安全ボランティア合同研修会というものや開催しております。こちらの研修会も指導員の向上を目的とした重要な取り組みとなります。毎年保険会社や大学教授などを講師に迎え、交通安全に関する講話の方を実施しています。先ほどですね、日本交通安全教育普及協会の彦坂様からの講演がありましたが、ここにも来ていただいたことがございまして、

令和6年度にも日本交通安全教育普及協会の方で講話の方をお願いしてやっていただいております。中ではグループワークの時間を設け、参加者同士が意見交換をして、現場の課題について一緒に考えるような機会も作っています。こうした交流を通じて地域間の連携や情報共有が進み、より実践的な活動につながっています。また、当県では交通安全に多大な貢献をされた方々や団体を称え、その功績を広く周知することを目的として、交通安全功労者等表彰式というものを毎年開催しています。この表彰式では、当連合会の静岡県交通指導員会連合会会長表彰というものを挙げておりまして、長年にわたり交通指導員として交通安全活動に尽力し、交通事故防止に著しい功績を上げた方々の表彰を行っています。この表彰は受賞者への敬意を表すとともに、さらなる交通安全活動への意欲を高めていただくことを狙いとしています。この表彰式の受賞者の活動を広く紹介したりですとか、他の地域や団体に取り組みを共有したりするような機会にもなっております。今後もこのような表彰を通じて交通安全に取り組む方々を支援し、県全体で交通安全社会の実現を目指していきたいと考えています。また、当連合会では会員の表彰の受賞ですとか、研修会などの内容を会員に報告する連合会活動などを周知するための会報の発行を行っています。昨年度の発行で第120号の発行となりました。会員同士の情報共有や連携を促進し、交通安全活動のさらなる充実を図るための重要なツールとなっております。引き続きこのような会報等を通じて、会員の皆様に有益な情報を提供していきたいと考えています。

私の方からは、静岡県交通指導員会連合会が実施している事業についてご紹介いたしました。当連合会では今後も引き続き県内の交通事故防止を図るため、事業を推進していきたいと考えております。

最後に、静岡県くらし交通安全課では交通安全情報やイベント情報を SNS で発信しています。先ほどの彦坂先生の方でヘルメットの展示をしているよってところでお話しありましたが、県の方でも研修会等でヘルメットを展示したりする様子をこのような SNS に載せたりしておりますので、興味のある方はぜひ見ていただければと思います。ここにいる方々の中にはですね、他の組織の方が多いいというところだったので、もしかしたらあまり皆さんにとって有益ではない話だったかもしれませんが、少しでも今後の活動になればと思います。ご清聴いただきありがとうございました。

## 石川県交通安全母の会 書記

### 寺口 優美子

「私たちの交通安全活動の取り組み」-マスコットに願いを込め、復興・交通安全-

志賀町は能登半島中央部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな町です。志賀町の平成26年の人口は2万2122人でしたが、令和6年10月末には1万7719人と大幅に減少しています。今回の能登半島地震も人口減少の要因となっております。

では、私たちの活動についてお話しさせていただきます。総会では、今回の能登半島地震を受けたことで防災学習会をしました。また、富来熊野地区女性会が震災直後から2月13日まで炊き出しを行った活動について報告していただきました。

春の全国交通安全運動では、子供会とタイアップして横断歩道付近での街頭指導を毎年行っています。サイクルマナーアップキャンペーンでは、県立羽咋工業高校に出向き、羽咋署と合同でヘルメット着用状況調査と交通安全のチラシ、反射リフレクターの配布を行いました。視察研修で石川県警察本部へ行きました。通信指令課交通管理センター見学中、突然赤ランプが点滅し、一気に緊張感が伝わってきました。なかなかできない体験をさせていただきました。

石川県女性県政会議では、高齢者へのデジタル化教育の推進に関して提言。知事は「これはとても良い提案で私も考えている。また、仮設住宅も 2 年で終わりではなく、一人ひとりが安心して住みなれた地域で生活できるよう、国や市町との連携を取りながら、息の長い支援を考えている」とのことです。

私の住んでいる二所の宮という地区ですけど、町外から移住してきた家族から小学校のスクールバスのバス停に向かうまでに道路を横断する必要があり、スピードを出して走る車が多いため、とても危険であると横断歩道設置の要望がありました。そこで関係各所へ相談しましたが、横断歩道の設置は難しかったため、地区の安協の人達と一緒に歩行者に注意と飛び出し注意の看板の設置をしました。

交通安全思いやりサポート事業として羽咋署の交通課の方に来ていただき、交通安全教室を行いました。講演の中で、能登半島地震後の交通状況と全国からの応援を受けて、6 月までで延べ 12 万人の警察官が石川県入りして対応して下さったことに心から感謝していることや道路状況などを話してくださいました。また、参加者一人一人に運転適性検査の最新機器を使い、運転時の対処方法などを教えていただきました。今年も交通安全マスコット講習会を行いました。短冊には能登半島地震からの復興を願い、縮緬の折り鶴と「みんなの願い復興、交通安全」と願いを込め 800 個作りました。会員手作りの交通安全マスコットを持ち寄り、警察署の方々や行政の方々などを招いて交通安全マスコット祈願祭を高浜の小浜神社で行いました。秋の交通安全運動では、町内 3 か所で交通安全のチラシや手作りマスコットなどを羽咋署、役場の担当課と協力し、ドライバーに安全運転を呼びかけ配布しました。

チャイルドシート調査の様子です。今年は高浜保育園前に行って、登園時に調査を行いました。こちらは交通安全の取り組みではないのですが、会員の携帯電話に振り込め詐欺らしき電話がかかってきたため、すぐに高浜交番へ相談に行きました。未然に防ぐことができ、ほっとしました。

町スポーツ指導員の協力をいただき、志賀町多目的スポーツセンターでペタンク大会を行いました。参加者は 34 名でとても盛り上がりました。終了後にミニ交通安全教室を開き、交通安全チラシと私たちの作ったマスコットを配布しました。

交通安全グランドゴルフ大会では、コース内に安全特別ルールを設けて参加者に指導しながらグランドゴルフを楽しみ、交通安全に対する意識向上を呼びかけました。志賀町仮設住宅に現在 352 世帯の方々が生活しています。会員手作りの交通安全マスコットにホッカイロを添えて志賀第 1 団地と志賀第 2 団地を訪れ、1 件 1 件手渡ししました。今後も活動を継続し、自立住宅の皆さんに声をかけ、寄り添っていききたいと思います。

最後に、これからも交通安全マスコットを作り、警察・行政・安協と協力して交通安全を呼びかけていきたいと思います。シートベルト着用の大切さやシートベルトの着用率が石川県はワースト 2 位とあまり良くなかったので保育園や学校、老人会へも出向き、着用率 100%を目指していきたいと思います。町民一人一人の声に耳を傾け、住み慣れた土地で、笑顔で暮らせるようこれからも仲間と共に活動を頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

## 坂井市交通母の会事務局

### 八十島 房栄

それでは、福井県坂井市交通安全母の会の活動報告をさせていただきたいと思います。よろしくお願います。たくさんいろいろな活動をしているのですが、今回その中で運転技能自動評価システム、オブジェとブレインストーミングについて紹介させていただきたいと思います。まず、運転技能自動評価システム(オ

ブジェ)ですけれども、坂井市交通安全母の会で実施したのは4年前の令和3年からになります。実施者数は令和3年度に6名で、令和4年度はコロナになっておりましたので活動ができず、翌年令和5年度は13名と令和6年度は10名と、多くの会員の方に技能診断をしていただいています。今年度はまだ実施はしてありませんが、今年度も実施予定をしております。この診断をすることで、自分の運転の欠点や癖をグラフ化して確認もでき、また警察の方に今後の運転についてアドバイスもしていただきます。この表に書いてあるのが実際の診断結果表になります。手元に届いて、結果表をもとに警察の方からのアドバイスをいただいております。この診断表は私の診断表ではなくて、高齢者の方の診断表になっていて、いろんな段階で評価をされます。測定ということで実施する方はいつもより慎重に運転して、しっかり止まっているつもりが、実はしっかり止まりきれいじゃなかったりとか、右をしっかり確認はできているけど左の確認ができていなかったりとか、いろんな診断結果が出てきています。このような結果をもとに警察の方が話をいただき、自分の運転の再確認ができ、今後の運転につながりとてもいいと感じておりますので、最初は母の会も役員の方から始めたのですけれども、徐々に広まって最終的には母の会の会員が今65名いるので、最終的に全員できればいいかなと思っております。

もう一つの活動は、今年度母の会のブロック研修会っていうのがありまして、その時に実施させていただきましたブレインストーミングになります。ブレインストーミングというのは、課題に対して参加者が制限なく自由にアイデアや意見を出し合う集団発想法になります。今回のテーマは事務局が2つのテーマを決めさせていただきました。

1つ目が「高齢者運転者の自主返納の推進について」もう一つは「信号機のない横断歩道の一時停止の義務の周知について」です。なぜこの2つのテーマにしたかというと、まず1つ目が、高齢者運転者の自主返納の推進については、自主返納を促すのはまだまだ高齢者にならない方や自主返納を考えていない方が多いと思います。

今回のブロック研修会では、母の会の会員さんは年齢層がちょっと高めの方が多いっていうのもありましたし、実際に自主返納をされた方もいらっしゃるの、その方の生の声、そしてこれから返納を考えている方の声を実際に聞けたら、市の支援などの今後の参考になると思い、このテーマにさせていただきました。

もう一つは信号機のない横断歩道の一時停止の義務の周知ですけれども、知っているかどうかかわからないのですけれども、福井県は横断歩道での車の停止率が26.7%と全国ワースト3位となっております。とても低い率なのでこの停止率を上げるためのヒントになればいいと思い、このテーマにさせていただきました。

当日は意見が出しやすいように、なるべく私町が同じ班になるようにし、8から10名1班の6班で行いました。1.3.5班が一つのテーマに、2.4.6班がもう一つのテーマで意見交換をしていただき、最後の各班の代表の方が発表していただきました。

高齢者運転者の自主返納の推進についてのたくさん意見を出していただいたのですけれども、その中で抜粋した意見内容がこのようなものになりました。この中からちょっと抜粋をさせていただきたいと思います。

まず3番目の今まで通りの生活ができるように周りの環境、足の確保などの便利さを検討してほしい。5番目は高齢者運転の方に運転の更新日だけでなく、常に高齢者のために教室を開いて徹底した講習を使用してほしい。

最後はアイデアをいただいて1歳、3歳児に検診があると思うので、それと同様に80歳検診というようなものを行って、その時に健康チェック、生活上のアドバイス、その際に免許返納を呼びかけてはいいのではないかなという意見もいただきました。

もう一つのテーマの信号機のない横断歩道の一時停止の義務の周知についてなんですけれども、これもたくさん意見いただき、運転手側と歩行者側、両方からの意見をいただきました。

まず運転手側ですけれども、1 つ目はカーナビに「横断歩道に近づきました、横断歩道があります」などしゃべるようにしたり、横断歩道の手前で運転手に聞こえるように音楽を鳴らしたりすること。あと 3 番目の道路にダイヤモンドを目立つように色をつけたり、夜間でもわかるように光る塗装にしたりしてほしい。次の項目で、横断歩道が立体的に見えるような塗装や蛍光色で一時停止ラインを引き、わかりやすくするなどの意見もいただきました。歩行者側としては、幼少期のころから意識づけが大事で、横断歩道の大切さをしっかり子供たちに意識づける、そしてその他として文書の隅、広報紙などに横断歩道はとまることが大事などのワンポイント的なことが目に見えるところに入れるなどの意見をいただきました。

今回のブレインストーミングでたくさんの意見を出していただきました。なかなかこのように話す機会がないのですけれども、話すきっかけがあれば、このようにたくさんの意見を出していただけることがわかりました。また、自主返納のテーマではもっと高齢者の方の話を聞く、高齢者の講習会をするといいなどの実際の声を聞けたので、高齢者を中心に活動してもいいのかなという点も気づきました。

また、横断歩道の一時停止のテーマでも、今すぐには停止率を上げることは難しいと思うので、長い目で見てこれから福井県の停止率が少しでも上がるように地道に訴えていこうと思いました。

これから一人一人の意識がちょっと高まるだけで、死亡事故、交通事故が減っていくと思います。そして、家族、友達、職場などで交通安全の話をするだけで、どんどん自分の周りから交通事故が減っていくと思うので、普段から話題にしていだけるような活動ができればいいなと思っております。

最後になりますが、その他の活動について紹介させていただきたいと思います。福井県交通安全母の会では反射材普及のため、毎年 9 月にピカピカキャラバン隊を結成し、県内各地で反射材の配布や靴などへの貼り付け活動を行っております。今年度も福井県により合計 9000 個の反射材の贈呈を受け、街頭啓発や高齢者の交通安全教室で配布しました。

また、母の会では市町と協力した交通安全イベント開催などもしております。越前市の母の会では、越前市交通安全フェスタを越前市との共同で開催し、ほろ酔い状態の疑似体験やミニ生命のメッセージ展など、多種多様なブースでの学習を通じて交通安全を呼びかけました。

今後も交通事故を 1 件でも減らすために、微力ではありますが母の会も啓発活動の取り組みを継続していきたいと思います。これで福井県交通安全母の会の活動報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## 富山県交通安全母の会連合会会長

### 花田礼子

富山県交通安全母の会連合会会長の花田でございます。よろしくお願いたします。富山県について少しご紹介させていただきます。富山県は、富山市を県庁所在地とする 15 の市町村で構成されています。今年にはニューヨークタイムズ紙の 2025 年に行くべき 52 か所に富山市が選ばれたため、国内外からたくさんの観光客が訪れていました。富山県民だけでなく、観光に訪れた方々にも気持ちよく富山県で過ごしてもらうためにも、安全な交通環境というのが大切な要素の一つであると考えております。富山県内の交通事故発生状況について触れたいと思います。令和 6 年の富山県の交通事故発生状況につきましては、発生件数は前年より減少し、24 年連続での減少となっています。

また、死者数は前年より9名減少し、22名になっておりグラフで記載されている平成19年から現在までの間では最小値となりました。

死者の年齢層につきましては、死者数全体に占める高齢者の割合が例年高い傾向にあります。昨年度も高齢者死者数は16人と全体の72.7%を占め、全国平均の56.8%を大きく上回っております。また、事故類型別死者数では、車対人が12人となっており、そのうち道路横断中の事故は8人で、そのうち77人が高齢者、歩行者です。高齢者が関係する交通事故の発生が多い傾向にある富山県では、高齢者や子供を対象とした世代間交流ヒヤリマップ作成事業と3世代交流交通安全のつどい事業を行っています。

まず、世代間交流ヒヤリマップ作成事業についてお話しします。本事業は、県からの委託を受けた母の会の各市町村支部で開催しております。令和6年での実施状況です。昨年度は、富山市、滑川市、砺波市、入善町の4か所で開催いたしました。こちらはヒヤリマップを作成している様子です。グループに分かれ、通学路や普段歩く道で危険な場所を確認し合いながら、危険箇所にシールを貼り、地図を作成していきました。これは富山市です。出来上がったマップはポスターや下敷き、クリアファイルにして児童や地元の高齢者に配布しています。

次に三世代交流交通安全のつどい事業についてお話ししています。こちらの事業もヒヤリマップ事業同様、県から委託を受けた母の会の各市町村支部で開催します。令和6年度の実践状況です。昨年度は富山市交通安全母の会連絡協議会が地元の小学校、警察署、交通安全協会と連携しながら実施しました。こちらは三世代交流事業の活動の様子です。開催した富山市では小学生児童とその保護者、その祖父母の三世代が一緒になって交通安全を考え、実践できるよう地域の小学校で開催しました。反射材作成教室や交通安全クイズ、飲酒体験ゴーグルの着用体験等をし、最後はみんなで交通安全宣言を行いました。

次に、各市町村における交通安全母の会の活動について簡単にお話しします。各市町村では、各季の交通安全週間における街頭活動や交通安全マスコットづくり、マスコットの配布啓発活動、各市町村の交通安全大会への参加、各種交通安全キャンペーンをそれぞれの活動規模に合わせて地道に実施しています。

次に富山県交通安全母の会連合会としての活動について簡単にお話しします。県連合会では、毎年5月に総会を開催しています。また、総会後には交通安全に関する研修会を行っています。この研修会では警察の方から交通事故の現状や交通安全に関する講話を聞き、県内各地域において交通安全母親活動指導を実践している母の会会員が効果的な交通安全活動を推進するための情報交換の場を提供することにより、日々の活動の充実を図ることを目的としています。また、毎年11月には富山県交通安全母の会連合会の大会を開催しています。大会の第1部では、日頃熱心に活動されている方の表彰を行い、活動に役立つ反射材を各市町村母の会に寄贈するとしています。

第2部では、各市町村が母の会の中から昨年度の活動を発表してもらい、活動の情報共有を行っております。昨年度は、県内県からの委託事業である三世代交流交通安全のつどい事業の実践報告を発表してもらいました。

以上、昨年度の村山県交通安全母の会連合会の活動をお話しさせていただきました。今後も各種活動を通じて、県民の交通安全につなげていきたいと思っています。是非、おいしいお寿司、おいしいお魚など食べに来てください。どうもご清聴ありがとうございました。

## ■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

宮田先生: それでは、皆様に発表していただきまして、大変それぞれ特色のある発表でしたので、そのそれらについてのご質問をここでいただいてもいいですし、または皆さん共通の課題について議論するのもいいと思いますし、または他の県にこういうところを聞いてみたいとかですね、どんなことでもいいと思いますが、いかがでしょうか。

●: 愛知県の交通安全運動についてお伺いしたいと思います。資料の 2 枚目ですかね。「母親の立場からの交通安全対策についての提言」という報告がございました。これまでに起こった提言とそれに伴う実績をお聞きしたいと思います。

●: 大きな場では提言はないのですけれども。母の会の総会で各市町村の委員さんに交通安全は家庭からということをお会長の方からお願いをして、家族の集いや交通安全集いがほとんどですかね。参加されている保護者、それから祖父母の方に会長の方から家庭からの交通安全の方のお願いをするような挨拶をされております。以上です。

宮田先生: ありがとうございます。静岡県さんいかがでしょうか。何か聞きたいことなどありますか？

●: 先程の発表でも一部触れましたが、交通指導員さんが年々減少傾向にありまして、高齢化しているところで募集などを行っているところでもあります。宮田先生の先程の話がありまして、その募集を増やすだけじゃなくて、いろいろな工夫ですとか、他にお願いしているなどの工夫とかもあるかと思うのですが、募集に関して活動の分け方とかで工夫されている部分などありましたら、お伺いしたいなと思いました。

宮田先生: 他の県の方々にお伺いしますが、ボランティアさんが足りていないというところで、どんな工夫をされていますか？特に振り分けのようなことを実践されているところがありましたら、ぜひお話ししたいと思いますがいかがでしょうか？これ、共通のテーマですよ。母の会さんに限らず、指導員さんの方も減少してることですね。比較的安定的かと思っていましたけども、そうは言ってもっていうところですね。石川県さんはいかがですか。

●: 先ほど発表にもありましたように、若い人には若い人なりの考えがあって、私たちよりもうちよっと若い人とだいたい若い人では考え方が何か違ってきているので、団体の会員数もだんだんと減ってきてまして、なかなか言っても増えないというような状況で、大分前でしたが 60 歳になったら婦人会も卒業が決まっていたのですけど、60 歳になると誰もいなくなるので。自分たちの団体だけで活動するって今のところはやっていますが、各種団体協議会っていうそういう行政が一体となったそんな組織もあったりするので、いくつかのボランティア組織と合併して一つの行事をするっていう、そんな方向に持っていくとちょっと難しい時代になっているなと思っております。

宮田先生: はい、ありがとうございました。具体的にお話をしてみたりとかはありましたか？

●: 先程の発表の中にもありましたけど、3 世代交流交通安全教室というのがありまして、自分もそんな若くないのですが、老人会、連合会の老人会、連合会の女性団体、保育園、幼稚園の子供たちが集まって、横断歩道の渡り方とか交通安全教室とかの行事も年に一回やっていたのですが、コロナが大変流行しまして、交流っていうのが怖くなったので、今中断している状態ですが、また再開をしたいなと思っていて、3 世

代交流はとても大事なことだなと思っています。

宮田先生:ありがとうございました。この三世代交流は、おそらくそれぞれの県でもやってらっしゃるようにお見受けしましたので、そういう機会がとられると良さそうですね。そういう時に、例えば困りごとを率直に伝えてもいいかもしれないし、それぞれでやってもらえるようなことを具体的にこんなことをしてもらえるといいみたいな。手間のかからないようなタスキ掛けて歩いてくださってもいいのですが、何かそんなに具体的な何かを示して、グッズも一緒に配るとかみたいなことができる良さそうですね。富山県さんいかがでしょうか。

●:富山県では今おっしゃった連合会云々ではなく地域のみですね。地域の中で、いろんな小学校、保育園とか、それのおじいちゃん、おばあちゃんたちを対象にしているのです。ですから、今おっしゃった連合会という結構広い範囲になると思いますけれど、富山県で今やっているのはわずかな地域だけです。特に3世代が一緒になっていますので、例えばおじいちゃんと一緒にいろんなことをやってみたりとか、それこそさっきもおっしゃったマスコットを作ったりとか、そういったことはしています。

宮田先生:ありがとうございます。分担するというよりは、一緒にやっているということですね。岐阜県さんはいかがですか？

●:はい、岐阜県に関してはよその県と同様に減っています。参加する市町村がどんどん減っています。県庁所在地である岐阜市が抜けます。大きな各務原市が抜ける状態で、どんどんどんどん参加する市町村、そのものが減っています。それで今いろんな各団体さんで協議しているのが安全協会さん。あそこも会員さんが減っています。するとやっていることは一緒なので手を組みませんかっていう話があちらこちらで出ているのは確かです。私も実際問題母の会にもなり、安協の会員でもあり、地域推進員の役員でもあり、高齢者指導員などをかけ持って架け橋になれないかなという活動はしていますが、なかなか具体的な話までは入ってはないのですが、いずれ安協さんとの連携っていうのは現実味を帯びてくるのだろうなというふうには思っています。

宮田先生:ありがとうございます。とても現実的には現状を描いていただいたと思いますが、指導員さんもどこかとくつつくとか、高校生たちにちょっと働きかけてみるとか、そんなことできそうですか。

●:ありがとうございました。当県の連合会ですと、例えば警察とか行うイベント活動というものはあるのですが、やっぱり普段の日常的なものをどこか一般の方と分担してところがあまりないので、皆さんにいろいろお話を伺ったので、参考にしてあり方検討していければと思います。ありがとうございました。

宮田先生:ありがとうございました。そうですね。これからの大きな課題としては、先程の三世代でできていますっていうね、本当に見本のようなところはそのまま素晴らしいです。同じことやっているから連携していく形も個々の人達に意識を持ってもらって、一人一人が自分のできる形で参加すると、その生活スタイルを大きく変えとか、何かグループの会員になるとかっていう大きな変化がなくていく緩やかな参加っていう形だと、きっと若い人なんか受け入れやすいのかなと思いますから、何か一人一人にできることっていうのを具体的に提案して、一人一人に響けばいいなと思いますけれどもね。

福井県さん伺ってよろしいですか？ オブジェについてですけども、運転技能自動評価システムが素晴らしいって大事なことだなと思いますが、運転を測定して自分の欠点とか癖をデータとして評価してもらうということですね。テストだから慎重にやっているにもかかわらず、しっかりやれていないとか欠点とか癖が明らかに見えてくるっていうことをさっきおっしゃっていましたので、とても必要だと思いました。これは母の会の方だけがやっている感じになるのでしょうか。

●:はい。福井県では3年ほど前ですかね、警察署に測定機っていうのが1台ずつ配置されたのです。全

国的に配属されているとは思いますが。県警に 1 台しかなかった時に私どもが率先してやりまして、その時私も参加させていただきましたが、きちんと止まっているようで止まっていない、見ているようで見てないってような現状でした。これは年齢に比例しているわけではないです。87 歳の方が高ランクであったりするわけ。そこでは速度の違反が非常に多かったです。運転していくところは警察、学校の前、商店街、住宅街っていう風に 15 分ぐらいの実施です。本当に良かったので、今年からは市民を対象に募集をする予定です。宮田先生:ありがとうございます。これ、一般の市民の方もぜひこういうのができるっていうのを知って、今みたいに経験してもらいたいといいですね。年齢だけじゃないということだし、今は高ランクだったけど、短期間で変わるってこともあるでしょうから、もっと広まるといいですね。それから、このブレインストーミングでみんなが自分の意見を遠慮ではあまり躊躇しないで話し合うっていうこの取り組みもとても重要で、意外と免許を返納するかどうかっていうのは微妙な要因もありますから、悩むところでもありますけど、とても重要な場面だなと思っておりました。これも引き続きやってらっしゃるのですか？

●:これは福井県で 3 ブロックに分かれてブロック研修会っていうのを毎年持ち回りでやっています。これがたまたま私は堺市の担当ということで、どういう方法がいいかなって議論をしまして、新しいやり方をやってみようとなりました。私どもの年代になりますと、やるのを躊躇しました。行政の方にもご協力いただきまして、非常にやってよかったっていう風に思っています。これを一過性でなく、少しでも行政に投げるとか、いろいろな警察の方につなげるとか、いろいろな方法を模索しているところです。

宮田先生:ありがとうございます。本当にこういうような内容については、本人がこう納得、腑に落ちるっていうのが大事だと思いますから、いろんな意見を聞いて、じゃあ自分がこうしようっていうふうに自分の意思を決定できる場面がとても大事だなと思っております。他にはどうでしょうか。

●:私は県の会長をしておりますけれども、他県の方々に、やっぱ県の連合会で会長をなさっていて、苦労しているとか、頭が回らないこともあろうかと思うのですが、県 1 本で何か福井県の場合には県とタイアップしまして、ここにもありますけどキャラバン隊という活動とかで、他県の連合会の方から高齢者教室を県下一斉にしてくださいねということで、少しのアピール品ですが啓発品を出して事業をしておりますけれども、県の連合会が主体となって、県の方にどのような啓発活動をしていくかというようなことをやっているところもあるのかということを知りたいなど。福井県の場合には高齢者教室ですね。高齢者教室と、それから年に一回行います母親活動推進団体、そして今、坂井市が発表しましたように、県下 3 ブロックに分けてのブロック研修会っていうのを県が主催でやっていますけれども、県が主催としてやっていらっしゃるところがあったら、どのような方法でやっているのか。そしてまた後継者問題についてもどのように考えているのか、ちょっとお聞きしたいなど思っていますので、よろしく願います。

宮田先生:ありがとうございます。富山県の花田さんいかがでしょうか。

●:県としてやっていることっていうのは、それこそ事故が多いものですから、三世代交流やヒヤリマップなどを県からの委託事業として行っています。

宮田先生:はい、ありがとうございます。愛知県さん、いかがでしょう。

●:愛知県では、県の主催のものとしては、先ほど富山県さんと一緒に、世代間交流の交通安全の家族の集いを主催としてやっております。その他県主催のというか市町村にお願いしまして、ハンド・アップ広報隊活動、こちらの方の啓発ヒントを各市町村の方に送らせていただいて、それを活用してそれぞれの地域の実態に合ったものをお願いしてやっていただいています。

それから、あとは年に一回行われる研修会が県の方の主催になって、会員様が参加していただいてもい

ような状態で開催をしております。後継につきましては、こちらの愛知県の方でもいろいろ問題になっていて、会長の方からも皆様に伺っておいてくださいという話だったのですけれども、先ほど講話の方でヒントもいただきましたので、そちらの方をお伝えしようと思っております。

昨年の講話でもお話を伺ったことで、学生との連携。学生と連携するといよいよっていうお話も伺いまして、いろいろ私の方も調べたのですが、県のいろんな事業の方で学生の方のボランティアを応募していますので、何か一緒に活動してもらってということで啓発活動に参加してもらえたらいいのかなって話が今ちょっと上がっているような段階で、まだ実際には進めていけないのが現状です。

宮田先生:ありがとうございます。やはりこの学生さんとの連携で、実際にそういう動きが全国でいくつかありますから、そういうところを参考にして、見学して話を聞いてみるのもいいでしょうし、例えば防犯なんかだと、既にそんなふうに具体的にその学生さんが動いているなんていうケースもありますので、交通と防犯はそんなに切り分けることもありませんので、今これ合体しようということも検討している段階ですから、そういうところの活動に交通の視線、視点も持ってほしいっていう考え方もありかもしれませんね。その学生さんと連携していく活動が後継になっていく、リーダーになる人じゃないかなと思うのですよね。そういう方々が引き継がれてくのだなっていう、未来が見えるような気がしますから、ぜひあんたたちの力借りたいみたいな感じで、一緒に活動できるといいですよ。

●:学校の生徒さんなんかにお問い合わせする場合は、すごくそのルートみたいなのもあって、教育委員会の承諾を得なくては行けないとか、ちょっとしたものを啓発品で学校へ持ってくるのも、教育委員会の教育長の許可をいただいてからしか行けないとか。チラシを配っていただきたいということをお願いしました。そしたら、校長会まで待ってほしいとかになって、私たちが思っているほど簡単じゃないですね。生徒さん、子どもを使うということはすごく責任がかかってくるので。そこのところも考慮しないと、私たちも動きづらい部分もあって、なかなかその勇気も出ないですね。教育長さんをお願いしまして、7000枚のチラシ配りましたけれども、そこに行くまでの経緯も大変なので、なかなか母の会だけで動こうとかそんなのは難しいなっていうのを実感しました。大学生になりますと自主性が認められますけれども、高校生ぐらいまでは上の人の許可がないと動けないっていうのが私は実情じゃないかなと思いますので、そういうところを県と国とかがそういうふうにもう少し柔軟なふうにしていけるようなシステムであれば、こういうことも簡単なのかなと私は思っています。

宮田先生:はい、ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。簡単にできることではないってことですよ。今日はやっぱり校長先生がどう考えるかっていうところが大きいと思いますけど、授業の一環なのかわかりませんが、そういうボランティアみたいなところを地域と一緒にやる。皆さんの活動を見てもらって、こんなこと困っていますよとかを伝えて自分たちなりに考えてもらうとかっていうようなところから入っていけるといいのだらうと思います。大学生なんかの場合は、本当に自主的にね、サークルとして子どもたちが本当に自分たちで考えて、学校の周り走っていたりしていますから、そういうところにまた呼びかけられるといいのかもしれないですね。例えばさっきの写真のようにも実際にやっているところもあるわけなので、そういうところにリサーチしてみるのもいいかもしれませんね。

●:県ではなく関市として、市立の高校が1校ありますので、最初はそこと連携をとりましたが、今関市に高校が3校あるのですが、そこでリーダーを各学校から積んで選んでいただいてヘルメットの着用について、その子たちがリーダーになって推進している活動をしているっていうのを聞いていますが、私達の女性部として動いているわけではないので、詳しいことは知らないですが高校生もそのリーダーになって活動しているのは確かですね。

宮田先生:彦坂先生よろしいでしょうか。ヘルメットについてもそうでしたけど、子供達の力を引き出すというか一緒に活動する取り組みも大切だと以前お話されていたと思うのですが、いかがでしょうか。

彦坂先生:はい。学校に直接話を通すのはハードルが大きいですけども、ちょっとこれ地域によっても違うとは思いますが、教育委員会の方で交通安全モデル校というようなものを設定しているケースがあります。その場合学校側で何か交通安全の活動をやらなければいけないということで、実際に実施する活動を探しているっていうケースもあつたりします。私が兵庫県でそういうモデル校をやったのが、高校生が指導役になって、地域の子供たちに自転車の安全教育をするというような、そういう授業をやったこともあります。学校っていうのを学習活動だけではなくて、安全とかに対しての研究とかを設けてやってらっしゃるところも多いので、そういうところを教育委員会さんなどに問い合わせさせていただいて、そういったところがあるようであれば、マッチングがしやすいのかなと思います。

宮田先生:はい、ありがとうございます。そうですね、今の交通に限らず、文科省の事業としてモデル校で実践する、むしろどこでやってもらおうかっていうような中で選定したりすることがありますから、そういったところをちょっとお調べいただくとか、やはり実際に今やっているところにどんなふうになっているのかっていうのをリサーチしてみるっていうのはいいかなと思います。人手が足りないというところに今度活動を選択して、合体してとかっていろいろなやり方があるかと思いますが、それぞれの地域で何ができるかっていうのがまた違いますから、ここら辺のいろんな情報収集も必要になってくるだろうというふうに思います。ほかにいかがでしょうか。

●:越前市の山々ですけども、狭隘道路が多いです。交通安全で交差点に立ちましたら、そこを通る子どもたちが見ている気をつけていくよとか声かけてくれます。薄暮時なんかですと、暗いから帰り気をつけてねとか、反対に癒されていました。

宮田先生:ありがとうございます。皆さんそれぞれに素晴らしいエピソードを持っていらっしゃるって、何年も継続してくださっていることと思います。いろいろ皆さんのご意見を伺いましてありがとうございました。何か結論が出たっていうことではありませんけども、皆さんの意見を伺わせていただいて、やはり課題が共通しているっていうことと、内容を選定していくのかとか、または同じ空間でやっている活動を団体が合体していくのかとか、または大学生なんかのサークルと一緒に拡大するなんてことができるのかとかですね、そういう可能性について話をさせていただいたと思います。ぜひお戻りになられましてからも、皆さんのそれぞれの地域でどんなことが可能だろうかっていうことを探させていただいて、また来年になったら何かこう、違う形が動き始めているなんていうお声が聞けると、とてもうれしいことだなと思います。ありがとうございました。

## ■講評

まず、あの愛知県の山田さまですが、やはりこの世代交流で十分その活動が深められているっていうことをお話してくださいましたので、それがとても印象に残っております。それから、このハンド・アップ広報隊活動というのがとても盛んだなっていうのがわかりましたし、このハンド・アップのポスターのイラストは愛知県さんの方で作られて周知されていますね。それから、このトラックフェスティバルですね。後ろから1枚めくったところにある黒い暗幕の中で、反射材をつけて具体的に体験して、こんなに違うっていうのを高齢の方とか子供たちに見せるっていう実践的でとても視覚的でわかりやすい取組をなさっていて、とてもすばらしいなと思って拝見しました。ありがとうございました。

それから次に、岐阜県の古田様が発表いただいたのですけれども、少人数で非常に多くの世帯を訪問されるということで、本当にご苦労だと思いますが、本当に一軒一軒回るのはとても大事なことだと思いますから、すばらしいなと思って拝見しました。それから、次のページの缶バッジキーホルダーですね。子供たちが絵を描いて、それを選んで優秀なものをこのキーホルダーにするってということで素晴らしいですね。あとは止まっとなってキャンペーンとかコーン絶作戦とか、いろいろ工夫されて、子供たちやお年寄りにも親しんでいただけるように工夫されている活発な取組がよく伝わってきました。ありがとうございました。

それから、静岡県の宮城島様も発表いただきましたけれども、指導員さんの発表でしたので、こちらは高齢者の対策は特に対象ではないね、子供たちに向けた取り組みってことで、2207名のメンバーがいらっやって、1000名の参加ですから、ほとんどの方が参加しているということですし、とてもこの指導員の方が活動するのに本当に困らないように実践的なご指導をされていて、本当に不安なく活動ができるのだろうなと思って拝聴しました。大変ありがとうございました。

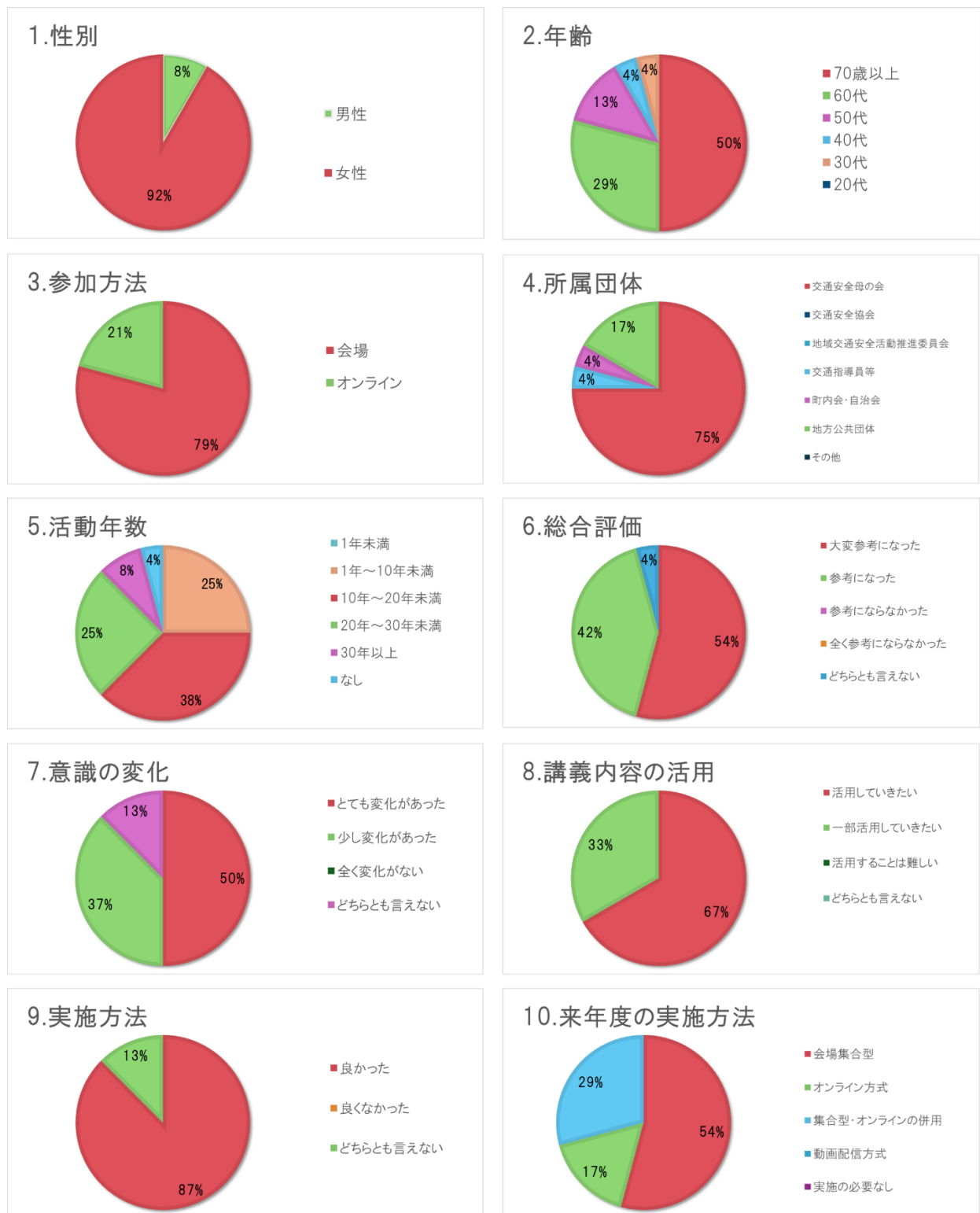
それから、石川県の寺口さんですね。こちらは子供会さんとタイアップしているってことですから、そういうつながり方もありますね。子供会さんも今子供が減っていますから、その分の余力があるとすれば、母の会さんとか交通安全の関係と一緒にタイアップするってことは非常に可能だろうなと思って、可能性に期待したいなと思っております。それから、自転車に乗る生徒さんでヘルメットを勧めていく中で、具体的に勧めてもらったらいいなって思うので、きつとかぶってくれるのではというふうに感じました。それからとても素晴らしいこのマスコット、折り鶴のような形のものなど、毎年違うものいろいろ作られて一緒に活動を熱心にされていることが伝わりましたし、来年は何になるのだろうかと楽しみだなと思いました。ありがとうございました。

それから、福井県の八十島様ですね。こちら会員65名の方で、この先程の自動評価システムを取り入れて、このブレインストーミングで不安がなくなるってことも大事ですね。どうしようって悩んでいて免許返しちゃったらもう戻ってこないとか、いろいろ不安がある中で、みんなの話を聞いたり他にもいろんな意見を聞いたりできる場があるというのはとてもいいことだ、大事なことだなと思いました。とてもオリジナリティのある活動だと思っておりました。

それから、富山県の花田様に発表いただきましたけれども、ヒヤリマップというふうに使われて、ここに完成したものがいくつか載っていますけど、とても見やすくわかりやすくきれいですね。とてもよく整理されていてすばらしいマップです。このマップっていうのはよくやる活動ですけども、これ作ったらおしまいじゃなくて、そのマップをどう活用していくのかっていうことがとても大事なわけですから、作って貼って終わりっていうふうにせず、またこれがずっとこのまんまの状況が続くわけでもないのだから、それをどんなふうにか変えて、違う現場を取り入れたマップにしていくか、またどう活用していくかということがとても大事なわけなんです。その中で一つのクリアファイルにして、みんなが手元にいつもあってふとした時に危険だな、気をつけて帰ろうかなという風にそれぞれの認識を高めていただくのも、そういうクリアファイルにして配っているっていうのが、何かなかなかのオリジナルな発想で素晴らしいなと思って拝聴した次第です。

皆様、本当にありがとうございました。なにせこの資料の完成度が高くて、とても見やすく素晴らしい活動がとてもよく伝わってまいりました。みなさんのご活躍を本当にご無理のない範囲でこれからも期待したいと思っております。くれぐれもご健康にお気をつけくださいます、子供たちや高齢の方のために、皆さんのできる時にできることをできる人が楽しみながらやるぞということで、活動を続けていただけましたらありがたいと思います。今日は長い時間いただきましてありがとうございました。

### 3.アンケート集計結果



問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・高齢者ドライバー事故が多いので、高齢者ドライバー向けの講演があればいい
- ・交通反則通告制度(青切符)の導入について 再度確認しながら話を聞きたい
- ・横断歩道での停止率を上げるための対策方法
- ・災害時の「交通安全母の会」の取り組み等
- ・難しいと思いますが、交通事故被害者の方の講演を可能であれば聴かせて頂きたい
- ・後継者を育てるための講習会など、例えば、小学生のボランティア養成
- ・連合会でも議題に上がり今回のリモート研修の資料にも提示されていた交通指導員やボランティアの増員に成功した事例などが全国的にあったものを活動の好事例発表の項目に取り入れてほしい。人口減少で現状人員を確保することが近年厳しくなっていますので取り上げてください。

問 12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・自転車ルールについてもっと学べる機会を取り入れてほしい(ヘルメットの展示等)
- ・チャイルドシート着用の必要性について保育園に出向いて保護者に話してほしい
- ・体験を取り入れた講習会等
- ・各市町での出前講座等があれば良いと思います
- ・県単位の総会でも、警察署の方々の講話も頂き、常時活動する上で必要と思います
- ・県単位での、母の会に交通安全ルールなどの研修をお願いしたい
- ・参加者が意見発表・討論できる場があってもよいのでは？(グループ対議)
- ・島田市交通指導員会では教育等で AED を使った普通救命講習会などもしていますが交通ボランティア見守り隊の方々は実施していないのでぜひ機会があれば行ってほしい

問 13.その他、ご意見ご要望ご感想など

- ・本日の講義でもありましたが九州参加者が全員一堂に集ってディスカッション・グループワークなどできるようになっていただけたらもっと良い講習会になると思う
- ・有意義なお話に参加してよかったです。
- ・彦坂先生の講演とてもよかったです
- ・令和8年4月1日から交通反則通告制度の導入について町民の皆さんに伝えていきたい
- ・県内だけでなく、県外の活動報告を聞いて良かった。今後の活動の参考にしたい内容もあった
- ・午前中の講話はもう少しほり下げた内容が聞きたかった
- ・他県の取り組みが皆違って特色があって、良かったです
- ・自転車ルール守るという非常に難しいと感じましたが、守らなければ自分の命も守れない！！と言う事になりますね
- ・市単位の母の会ですが、全地区に母の会がないので、どのようにしたら良いのか
- ・ボランティア活動において大切なことは無理をしない。分担と連携など他の団体活動についてもポイントとなることで気が楽になった様な気持ちでまた頑張ろうと思いました
- ・初めて参加致しました ありがとうございます

- ・私達の交通安全母の会も少人数の会ですが、明るく楽しく無理せず活動していますが、宮田先生のお話を聞き、運営の仕方は間違いではなかったことを確信しました
- ・他県の交通に対する活動がとても参考になった
- ・活動事例 6 県の発表で共通の課題や傾向があると思いますので、全体傾向を東海北陸の特色と傾向として1つの冊子化し機械があればしてください。静岡県は母の会が他の 5 県は女性中心の活動に見えたのが気になった
- ・令和 8 年 4 月 1 日から交通反則通告制度の導入について町民の皆さんに伝えていきたい
- ・県内だけでなく県外の活動報告を聞けて良かった今後の活動の参考にしたい内容だった

## 4.写真



来賓挨拶 福井県



講演 宮田先生



講演 彦坂先生



活動事例発表の様子



活動事例発表の様子



意見交換会